

## 【研修報告】

令和4年度第5回在宅医療・介護関係者研修会を開催しました

# 『ACPことはじめ ～リビング・ウィルから始めるACP～』



## 講師:満岡 聡 先生

公益財団法人日本尊厳死協会理事・さが会長  
医療法人満岡内科クリニック 理事長・院長

令和4年12月17日(土)14時30分～16時30分  
諫早社会福祉会館 2階多目的ホール  
参加者 35名

今回は、講師に満岡内科クリニック院長の満岡聡先生をお迎えし、約3年ぶりの集合型の研修会を、諫早市在宅ケアサークルと共催で開催することができました。

講義では、リビング・ウィルについて理解が深められ、ACPの定義を整理しながら、改めてACPのタイミング、始め方について、学ぶことが出来ました。

講義後、参加者の皆さんには“私の希望表明書”を記入してもらいました。6つのグループに分かれ、事例の当事者の役を1人設定し、その方の希望表明書をもとに、その方にとっての最善のケアをどうしたらよいか話し合いました。『それぞれの職種で出来ることは何か』という視点で、多職種の様々な意見が、活発に交わされていました。

昨年度のACP研修後に「次回はぜひ会場で!」という声をいただいておりますので、コロナ禍ではありますが、開催することができ、大変うれしく思います。参加者の方から、「久しぶりの集合研修で、顔を合わせて行う良さを実感した」「対面ならではの、いろんな話ができて楽しかった」という声がたくさん聞かれました。

### 参加者の感想(一部抜粋)

- ・家族だけでなく、専門職も交えた対話が必要だということを経験できてよかったです。
- ・いろいろな職種の方の考えが聞いて良かったです。ACPの進め方など参考になりました。
- ・グループワークで実際にやってみることで、気持ちの変化を実感することができ、また、多職種の意見も大事だと感じました。今後普及していくためには、実践する人たちへの正しい理解が重要だと思います。
- ・なかなか整理がつかず、進め方が難しい領域だと感じています。そのため、事例を通じてお互いの支援の強みを共有することが大事だと思います。



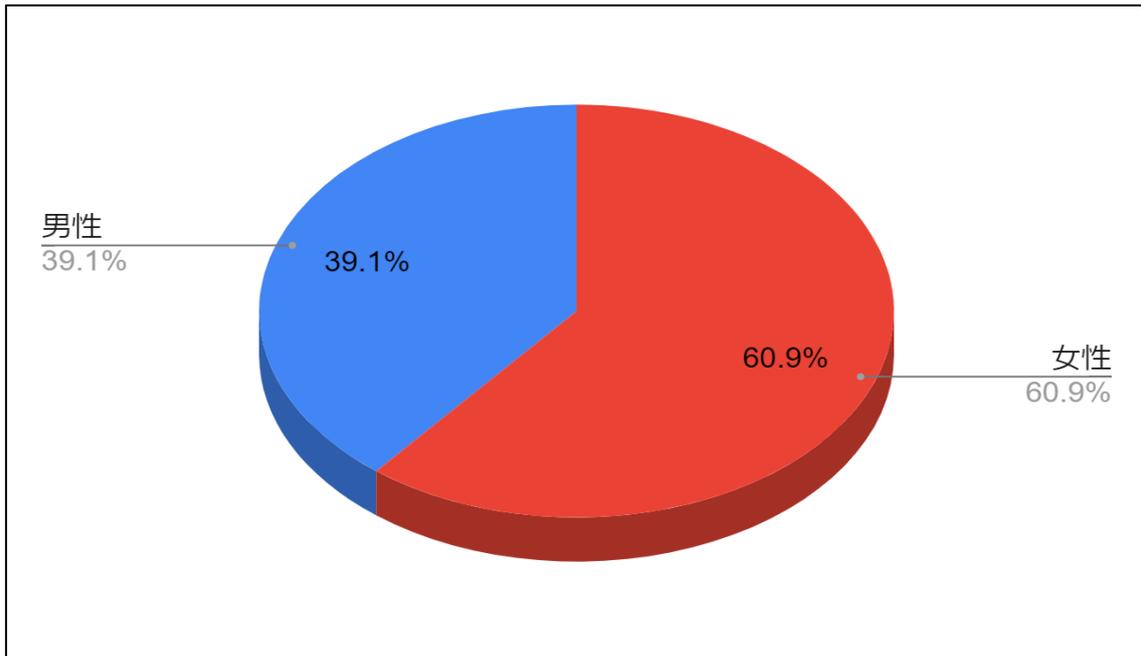
# 令和4年度 第5回在宅医療・介護関係者研修会

## 『ACPことはじめ～リビング・ウィルから始めるACP』

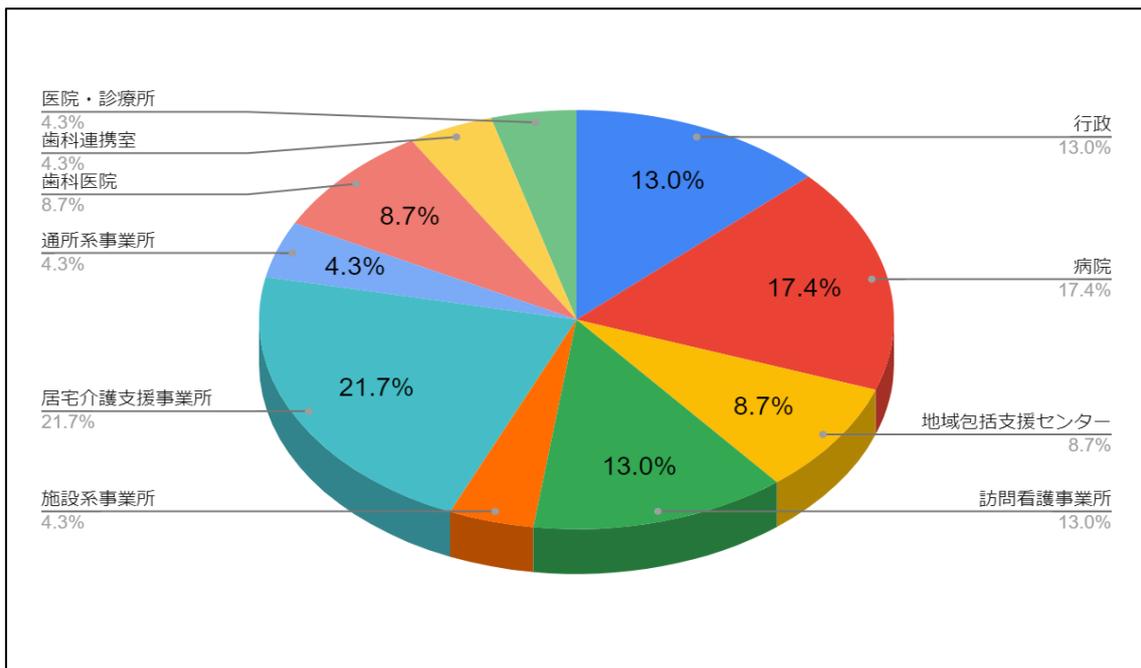


参加者 35 名 回答者数：23 名（回収率 65%）

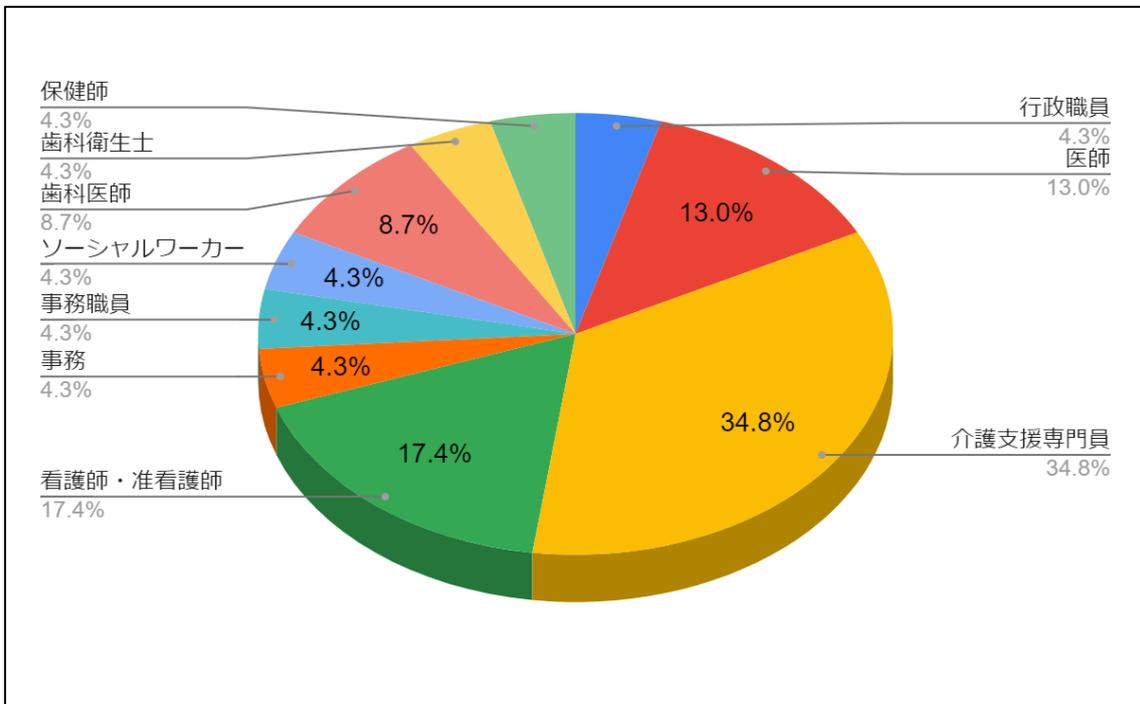
### 1. 性別（男性 9名/女性 14名）



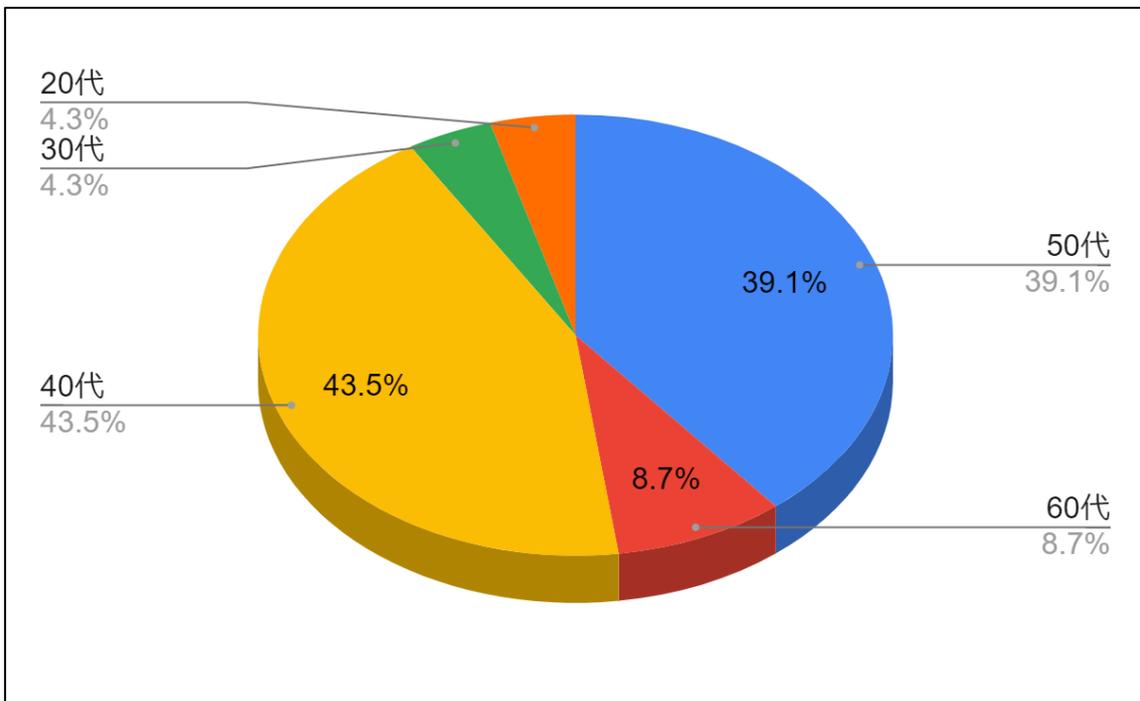
### 2. 所属



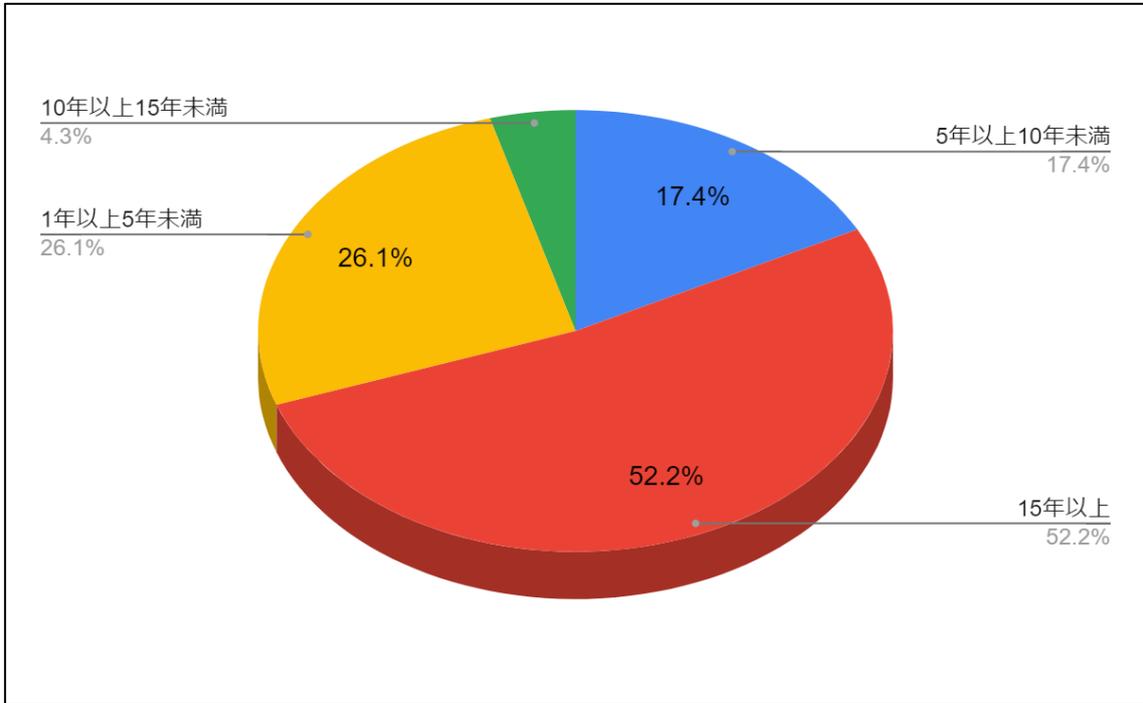
### 3. 職種



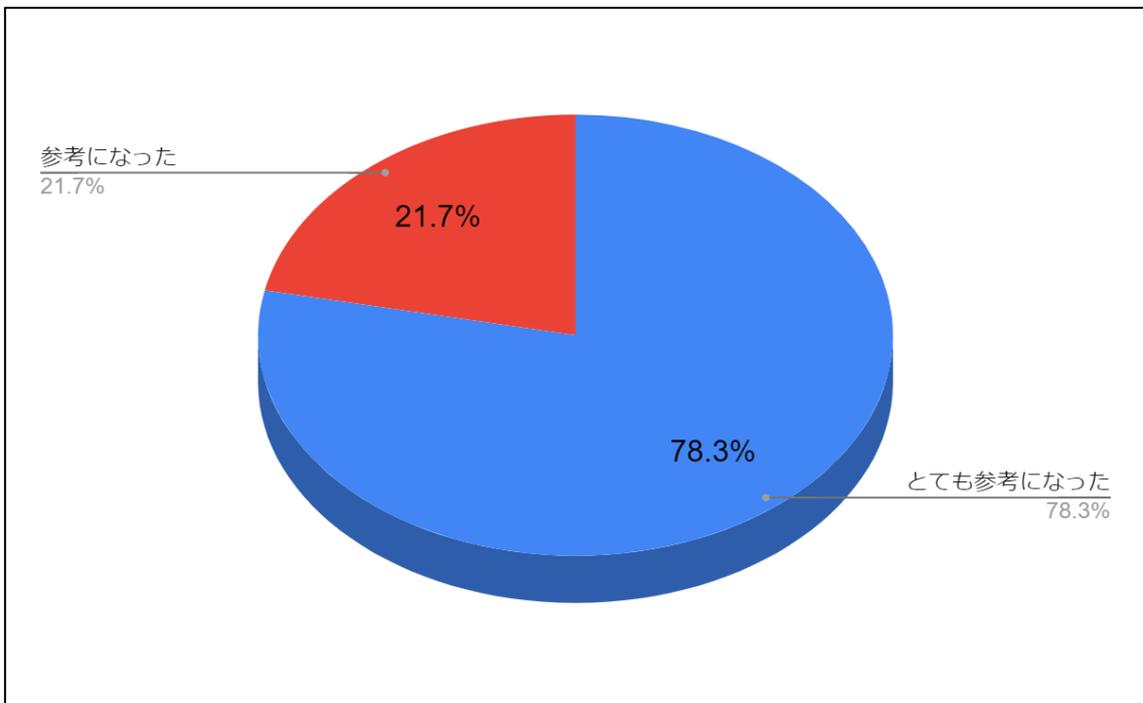
### 4. 年齢



## 5. 職場の経験年数



## 6. 本日の研修内容はいかがでしたか



## 7. 本日の研修の感想をご自由にお書きください。

- ・家族だけでなく、専門職も交えた対話が必要だということを経験できて良かったです。
- ・ACP は医療者だけでなく、みんなでわいわい話し合うスタイルが向いているものと感じた。
- ・話し合いを繰り返す、ということが本当にそうだと感じつつも、死を目前にする前の健康な時に、まずは家族できちんと向き合って話をしておきたいと改めて思った。グループワークの時間が足りなかったと感じた。
- ・はじめての参加でしたが、興味のある内容だったので分かりやすかったです。今後の事を考えさせられる内容でした。まずは身近なところから実践していきたいと思いました。
- ・いろいろな職種の方の考えが聞けて良かったです。ACP の進め方など参考になりました。
- ・ACP に関しては、以前より考えていたことではあったが、施設においてもご家族に対し確認すべき事項であるが、家族のタイミングと施設側のタイミングのズレが生じ、家族が「今この時点（入居してすぐ）でそういうことを聞かれても…」と関係性が難しくなるケースもあった。今回の研修を受講し、本人・家族へのアプローチの仕方を深く追求すべき事項であると再認識した。貴重な講義をありがとうございました。
- ・ACP について考える機会を持てて良かった。ACP は決めておくべきだし、利用者様やご家族にも話してみたいと思った。
- ・今回の研修を受けて死ぬときの事を考えるのではなく、最期までどう生きたいかを考えることだとわかりました。ケアマネとして、その方の生活歴や大切にしていることなど伺っています。それを活かせるよう支援していきたいと思いました。ACP は、本人も残される家族も笑顔になれると感じました。これから今回学んだことを活かして、ご利用者、ご家族と話しをしていきたいと思っています。ありがとうございました。
- ・ACP についてわかりやすくご説明いただきよかったです。また、多職種の皆さんとディスカッションでき、参考になりました。
- ・グループワークで、実際にやってみることで、気持ちの変化を実感することができ、また、多職種の意見も大事だと感じました。今後、普及していくためには、実践する人達への正しい理解が重要であると思います。今日は、ありがとうございました。

・初めての研修内容で楽しかったです。

・とても勉強になりました。まだ、20代のため APC のことについては、まだ先のことだろう…と思っていましたが、家族のことを考えると、まだ先のことではなく、いつ何があってもいいように意思表示はしておかないといけないと思いました。

・延命治療を望まない方が多いようには感じるが、一時的なものであれば希望していない処置や治療を受けることもありえる。しかし、誰の人生で誰に対する治療なのか、ということがブレてしまうと迷いそうなので、基本的には「本人」の意思で動くべきだとも感じられた。

・ここ最近の担当者会議の時に最期をどこで過ごしたいか?は聞くようにしています。しかし自分の事となると難しかったです。家族間でもじっくり話してみようと思いました。

・どのような死を選択するか考えるよい機会でした。

・大変勉強になりました。また参加させて頂きたいと思います。

・当事者、家族の選択の難しさを改めて考えさせられました

・久々の対面形式の講演会と、グループワークでしたので楽しく、勉強させていただきました。終末期においての、多職種連携で、患者家族の、終末期に対する気持ちを支えていくことの大切さを学ぶことができました

・ACP の進め方、多様な疾患、認知症による判断能力低下などグループワークを通して難しさを感じました。また今後も継続した研修を行なってもらいたい。

・なかなか整理がつかず、進め方が難しい領域だと感じています。そのため、事例を通じてお互いの支援の強みを共有するのは大事だと思います。広義、狭義の ACP をさらに理解していく必要を感じました。

・集合研修参加、久しぶりでした。とても有意義な機会をありがとうございました。

## 8. 研修会の運営(テーマ・開催方法・日時等)に関するご意見・ご要望等ありましたらご記入ください。

- ・在宅医療を受けている方、支援している方(医療・介護関係者も)が「大切にしていること、大切に思っていること」というテーマはどうでしょうか？
- ・学校を卒業したら参加したいと思いますので、1年間の開催予定などをお聞きしたいです。
- ・久しぶりの対面の研修参加でとても新鮮でした。対面ならでのいろんな話ができて楽しかったです。先生のお話もやはり対面の方が感じるものが多いような気がします。いつも大変勉強になる研修を開催していただき、ありがとうございます。
- ・平日の夜間だと、終了時間の遅れに対する雰囲気はまた違ったものではないでしょうか。今回に関しては、土曜日の午後が適当だったように感じます。毎日が土曜日の午後だと何かしら予定を前もって入れている方もいるかもしれないので、イベント的な研修には適した曜日と時間だと思います。
- ・個人的には講演会とグループワークが一緒だと少々長くて疲れます。片方にして討論会が長い方がいいかなと感じました。また、症例検討会をいろんな職種から出してみるのも良いかもしれません。普段の困っている事、悩んでいる事を話し合ったり、共有したりする機会があればいいかなと思います。
- ・日時で不都合と思ったことはありません。食べることを栄養面、機能面詳しく知りたい。
- ・コロナ禍で、開催が難しい点もありますが、やはり対面で時々開催してほしいと思います
- ・久しぶりの集合研修よかったです。やはり顔を合わせて行うよさを実感しました。

